

1. 略歴

1983年3月	東京大学文学部第1類哲学専修課程卒業
1986年3月	東京大学大学院人文科学研究科哲学専門課程修士課程修了
1988年3月	東京大学大学院人文科学研究科哲学専攻博士課程退学
1988年4月	東京大学文学部助手
1992年4月	立命館大学文学部助教授
2001年4月	立命館大学文学部教授
2003年4月	東京大学大学院人文社会系研究科助教授
2007年4月	東京大学大学院人文社会系研究科准教授
2009年9月	東京大学より博士（文学）の学位を取得
2010年4月	東京大学大学院人文社会系研究科教授

2. 主な研究活動

a 専門分野

ドイツ現代哲学、ケアの哲学

b 研究課題

ドイツ現代哲学のなかでも、とりわけフッサール、ディルタイ、ハイデガー等によって展開された現象学・解釈学に関する歴史的・体系的研究を行っている。これまで積み重ねてきたフッサール研究については、1冊の書物にまとめたものを、2009年11月に公にした。また以上の文献的研究と並行して、現象学的哲学の今後の展開の可能性のひとつとして、「看護」を中心とする「ケア」の営みを現象学の視点から基礎づけ解明する試みも行っている。

c 主要業績

(1) 論文

榊原哲也、「生きる意味」を支えるもの——「自殺に傾く人」へのケアについての現象学的考察——、『論集』、第30号、34-47頁、2012.3

Tetsuya Sakakibara, “The Intentionality of Caring”, Alessandro Salice (ed.), *Intentionality: Historical and Systematic Perspectives*, Philosophia Verlag, pp. 369-394, 2012.12

Tetsuya Sakakibara, “Phenomenological Research of Nursing and Its Method”, *Schutzian Research*, Vol. 4, pp. 113-150, 2012.12

Tetsuya Sakakibara, „Ich und Du bei Nishida und Heidegger“, *Berliner Schelling Studien*, Heft 11, S. 119-140, 2013.

榊原哲也、「ケアの志向性—フッサールからのアプローチ—」、『論集』（東京大学大学院人文社会系研究科・文学部哲学研究室）、第31号、18-37頁、2013.3

Tetsuya Sakakibara, „Genesis und Abbau – eine Gedankenlinie von Husserl zum frühen Heidegger“, *Heidegger-Jahrbuch* Bd. 7, S. 229-245, 2013.8

Tetsuya Sakakibara, „Die Intentionalität der Pflegehandlung“, *Phänomenologische Forschungen, Jahrgang 2013, Soziale Erfahrung*, Felix Meiner Verlag, Hamburg, 2013, S. 249-265.

(2) 学会発表

国際、Tetsuya Sakakibara, “The Intentionality of Caring”, The 5th Biennial Meeting of the Phenomenology for East-Asian Circle (PEACE), Peking University, Beijing, China., 2012.9.23

国内、榊原哲也、「ケアの志向性—フッサールからのアプローチ—」、第39回臨床実践の現象学研究会、大阪大学豊中キャンパス、2012.10.6

国内、西村ユミ・榊原哲也、「看護実践の構造—フッサールの志向性概念との対話—」、第45回臨床実践の現象学研究会、首都大学東京秋葉原サテライトキャンパス、2013.6.1

国際、Tetsuya Sakakibara, “Phenomenology of Caring from an East-Asian Perspective”, XXIII World Congress of Philosophy “Philosophy as Inquiry and Way of Life”, University of Athens, School of Philosophy, University Campus – Zografos, Athens, Greece, 2013.8.5

国際、Tetsuya Sakakibara, „Die Intentionalität der Pflegehandlung“, Internationale Tagung des Husserl-Archivs
Köln in Zusammenarbeit mit der Deutschen Gesellschaft für phänomenologische Forschung, Universität zu
Köln, Germany, 2013.9.27

(3) 予稿・会議録

国内会議、榊原哲也、「不安・抑うつ」の臨床哲学—現象学の視点から」、第4回日本不安障害学会学術大会、早稲田
大学国際会議場、2012.2.5

『第4回日本不安障害学会学術大会抄録集』、59頁、2012.2

(4) 会議主催(チェア他)

国内、実存思想協会2013年春の研究会、チェア、シンポジウム「フッサールとハイデガーの根本問題—事実性をめ
ぐって—」、大阪大学豊中キャンパス、2013.3.22

国内、哲学会第52回研究発表大会、モデレーター、ワークショップ「フッサールを読み直す—『イデーⅠ』刊
行100年」、東京大学本郷キャンパス、2013.10.26

3. 主な社会活動

(1) 他機関での講義等

特別講演、日本赤十字社医療センター、「患者を個として見るとはどういうことか—地域と個に根ざした包括的ケア
への現象学からのアプローチ—」、2013.3

非常勤講師、東京慈恵会教務主任養成講習会、「哲学」、2013.6~2013.7

非常勤講師、朝日カルチャーセンター・横浜、「ケアのための現象学入門」、2013.12

非常勤講師、首都大学東京大学院人間健康科学研究科、「看護哲学Ⅱ」、2013.10~2014.3

(2) 学会

哲学会、理事長、2012.4~2014.3

日本哲学会、会計監査、2013.6~2014.3

実存思想協会、事務局長・幹事長、2012.4~2013.9

日本現象学会、委員、2012.4~2014.3